

新しい年、2021年を迎えて

年末から年始へと時の流れではあるが、2021年という新しい年を迎えた。人生の区切りをつける意味で、新年の思いを記録しておきたい。

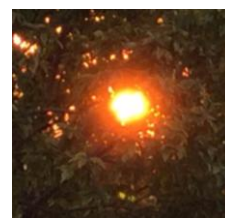
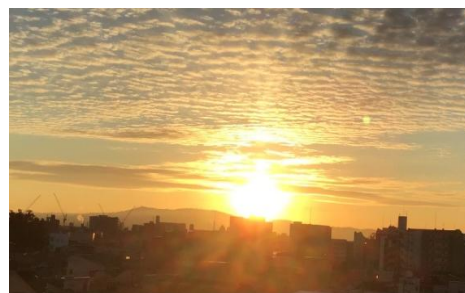
写真は昨年11月に撮った朝焼けの空。生駒山近くから真っすぐ昇る光が、なんとも言えない。こんな光輝く2021年、世の中であってほしい。写真を見ていて、ふと5年前のレポートを思い出した。

退職2年目だが、どうやって自分の「居場所」、仕事の拠点をつくるかが悩ましい。「小さな世界」に閉じこもりがちなのも、改めていきたい。でも、あまり焦らず、前向きに生きていくことだ。この1年を写真で示すと、「危機の中にひとすじの光」か。名古屋星ヶ丘の自宅階段から撮ったもので、網膜の入院・手術も影響していた。目の病気は「もうまく」にしたいと願ったのだが。

名古屋から大阪に転居して3年になる。大阪暮らしにも慣れ、大阪の地にだんだん根を張ってきた。昨年は11月1日の「大阪市廃止・特別区設置住民投票」に全力投球し、なんとか大阪市を存続させることができた。大阪市民の草の根のエネルギー、底力を感じた。多くの市民、団体と交流するなかで、多くのことを学んだ。大阪維新の会は、「大阪市存続」を骨抜きにしようと画策している。「広域行政一元化」と「8総合区」の条例化である。コロナ禍で強行された住民投票の民意を無視するもので、市民の力で阻止しなければならない。当面する課題に対応するだけでなく、中長期的な視野で大阪研究を進めていくつもりだ。維新は「大阪の成長」を看板に掲げるが、大阪経済の実態を構造的に調査分析し、成長戦略に対する対案を考えていく。それとも関連させ、大阪市と大阪府の行財政分析から、大阪特有の問題状況をさぐりたい。住民投票で示された大阪市民のエネルギー、草の根の市民運動についても、「やまだ塾」の参加メンバーらと検討を進めるつもりだ。

退職した2014年に『東海ジャーナリスト』100号に、こんなことを書いて寄稿した。これからの人生をどう過ごしていくか。迷うことも多いが、せっかく積み上げてきた「ストック」をできるだけ有効活用したい。若い頃、恩師からもらった「よく耐えて 時の力を たのむべし」という言葉が身にしみる。戦後日本の地域開発と公共事業、財政について、足もとの地域から検証する研究書をまとめていきたい。「日暮れて道遠し」の感じではあるが、前向きに考えていくことにしよう。

例年の正月は京都で「初心」というお酒を味わった。今年は味わえないが、「初心」の気持ちで、研究にも力を入れたいものだ。



(2021年1月1日)